愛知学泉短期大学　2021 年度自己点検評価報告書　外部評価の概要

1　評価日　2023 年 3 月末日
2　評価者　外部評価委員　3 名
3　評価対象　2021 年度

外部評価委員からの評価書

評価者名	評価委員　I

1. 建学の精神と教育の効果について
評価する 理由：建学の精神については、創立者の自伝をはじめ、学生便覧など広く示されており、折に触れて共有がはかられている。その建学の精神を具現化するために、地域への貢献として公開講座や自治体との協定、授業の開放などを積極的に行っている。それらは、地域貢献のみではなく、その活動にかかわる学生への教育効果も高いと判断できる。 　さらにそれらを 3 つのポリシーにあらわし、教育の質の向上を実現できるように努力されていることが認められる。また、その業務の評価を行うための自己点検も誠実に行われていることも評価に値する。
2. 教育課程と学生支援について
評価する 理由：教育課程をベースとしてシラバスおよび授業内容、教授法などが一貫して運営されていることは評価できる。教育課程の内容としても、資格取得への支援、輻輳的な支援体制が準備されているとともに、さまざまな情報の公開などもきめ細やかに実施されている。 また、「学生相談勉強会」の実施など、学生相談の体制と教員との共有がはかられているとともに、障害学生への合理的配慮への準備も高く評価できる。
3. 教育資源と財的資源について
評価する 理由：教員組織、施設設備、図書の質と量等については設置基準を十分に満たしている。2020 年からは新型コロナの感染防止のための遠隔授業を行う必要性が求められるといった危機に対しても、迅速な整備を行ったと判断できる。 　財的資源についても、諸表が的確に整えられるとともに、専門家からの監査も受け、誠実に運用されていると判断できる。ただ、収容定員充足率が 90%を切っていることや、現代マネジメント学部の募集停止、今後の 18 歳人口の減少に対して、さらなる健全財政の維持を目指されたい。

4. リーダーシップとガバナンスについて
評価する 理由：理事会の方針決定に際し、建学の精神をはじめとする理念との整合性が認められることがうかがえる。また、教員組織と経営組織の連携にも配慮されている点が評価できる。さらに、大学の活動について広く公開する姿勢が認められ、このことによる社会からの評価をうけながら、法令順守およびガバナンスを重視する姿勢が認められる。
5. 総評
上記 4 つの視点から評価を行ったが、いずれも誠実に運用されていることと、組織全体が一貫性をもって運営されていることが認められる。教育を取り巻く環境は急速に変化しているし、新型コロナによる影響も多大なものがあったが、そういった事態に対しても迅速に対応していることが評価に値する。 AI や、ICT などどの分野においても技術的な変化が想定されるが、人と社会、地域との関係性を重視した姿勢を今後も維持していただきたい。

評価者名	評価委員　II

1. 建学の精神と教育の効果について
評価する 理由：建学の理念と建学の精神に基づき、短大 3 学科が学科の特徴を生かした教育目標を掲げ「建学の精神」を核として、学内外での多くの活動や創立者の寺部だい自伝「おもいでぐさ」を学生・教職員で共有し、学園創設以来の「建学の理念」を堅持している。それらの内容と教育的効果が具体的に明記されており、社会の変化に対応し常に新しい「建学の精神」を核にした独自の教育「智・徳・体・感・行」に基づく 3 つの挑戦プログラムから構成される自学・共学システム「学びの泉」を推進し努めていることが報告書から読み取れた。
2. 教育課程と学生支援について
評価する 理由：教育課程では、短大 3 学科それぞれの教育目標と教育方針、学習成果に対応した内容が明確に示されており、それに基づき幅広い教養を培うべく内容が編成され実施されている。特に注目されるのが、学泉短大独自の教育課程科目である「無限の可能性開発講座Ⅰ・Ⅱ」（社会人基礎力の育成）、「キャリアデザイン」（職業教育）は、社会に貢献できる人材の育成をめざした 3 学科の特徴を生かしたオリジナルな内容であることが評価できる。学生支援においても、学習支援・生活支援・就職支援と教職員が一丸となり学生支援に携わっていること、学生や卒業生へのアンケート実施など調査も実施し検証している取り組みが報告書から読み取れた。

3. 教育資源と財的資源について
評価する 理由：教育資源の人的資源である教員は、教育課程構成・実施の方針に基づいて編成されており、学科の特性に配慮した教員を配置、また助手・研究補助員を配置し教育効果の充実が図られ、きめ細やかな学生へのサポート体制が整っている。教職員の就業規則を明確に定め人事管理が適切に行われている。学内 LAN などハードウェアの向上・充実も図られ、教育効果や学生指導の充実に努めていることが報告書から読み取れる。財的資源については、短期大学部門における過去 3 年間の収容定員充足率は 89%、経常収支率は平均 5.8%。資金収支における 2021 年度、短大 640 名確保のところ 598 名に留まっている状況にある。今後、短大を取り巻く社会の変化に敏感に対応すべく、短大の各学科が定員の充足が図れる努力が必要とされる。報告書には、それに対しての改善計画が示されており、取り組みが報告書から読み取れた。
4. リーダーシップとガバナンスについて
評価する 理由：理事長は、常に学校法人安城学園の目的である「建学の理念・建学の精神」の実践をとおして、学園の 7 つの設置校の状況把握を積極的に行い、学校法人安城学園の管理運営及び教学部門を含む経営面の全般にわたり、リーダージップを発揮し、公正な判断・運営がされるよう統制する仕組みつくりを行っている。 学長は、教学運営の最高責任者として、「建学の理念・建学の精神」に基づいた教育を推進し、教育モデル「智・徳・体・感・行」を核にした教育を推進する強力な意思と能力を有し、短期大学の向上・充実に努め教職員を総括するリーダーシップを発揮している。ガバナンスも適切に機能していることが報告書から読み取れた。
5. 総評
自己点検・評価報告書完成までの活動記録を拝読し、１・２・３・４の項目において、現状・課題・特記事項・教育の効果と分類され、その内容も具体的に詳細に明記され解りやすい。特に「基準Ⅰ　建学の精神と教育効果」における活動は、コロナ禍で人数制限や中止を余儀なくせざるを得ない状況下で、感染防止に努めながら取り組んでいることや、産官学連携事業にも力を入れられ、特に教育職員と学生がボランティア活動を通じて地域・社会に貢献していること、学科の特色を生かした取り組みの成果発表「学びの泉グランプリ大会」を毎年、大学・短期大学全学生参加で行い、教育効果を高めていることは、大変評価できる。このような活動は、今後も継続を期待する。 「基準Ⅳ　リーダーシップとガバナンス」について、学長のリーダーシップの課題として、各学科の教員・職員・学生との面談や卒業生との面談の機会をつくり現場の生の声を直接聴いてみることを（アンケート以外に）提案したい。

評価者名	評価委員　Ⅲ

1. 建学の精神と教育の効果について
評価する 理由：建学の精神を基に公開講座を多数実施し、社会貢献している。
2. 教育課程と学生支援について
評価する 理由：就職内定率が高く、支援体制が良い。
3. 教育資源と財的資源について
評価する 理由：施設・設備の改善、新設などを行い、教育環境を常に整えている。
4. リーダーシップとガバナンスについて
評価する 理由：強力なリーダーシップを発揮している。
5. 総評
無限の可能性を引き出す教育と教育の地域還元を目指す取り組みを継続している。